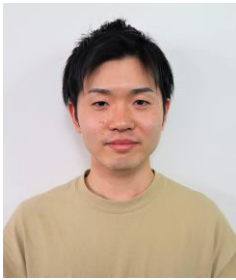


<能力強化事業（インターン育成事業）> 「できること」を実践し、応援の輪が広がる

ICAN 日本事務局
インターン
飯田 智哉

～プロフィール～
愛知県内の私立大学
に在籍中。事務局イン
ターンとして2020年
6月より現職。

私は2020年6月から、日本事務局のインターンとして活動をしてきました。入職時は新型コロナウイルス感染拡大の第一波が来ていた頃で、このような状況に対して何もできない自分へのもどかしさを感じており、この思いを行動に移すためにインターン応募を決めました。アイキャン入職後、アイキャンでの業務を通じて、新型コロナウイルスの影響によって事業地の人びとが苦しい状況にあるのを目の当たりにしました。感染対策もままならない日々を送る子どもたちやその家族の存在を知り、自分も彼らの力になることはできないかと考えていた時に、クラウドファンディングを立ち上げることにし、私は職員や他のインターン生と広報の仕方を考え、実行をしていく業務を担当しました。

目標金額に到達させるために、どのように広報を進めていくべきかを常に話し合いました。新型コロナウイルスの影響で対面式のイベントは中止となり、多くの方へ協力を呼びかける機会が大幅に減少していましたが、その中でも何ができるかをより深く考えた結果、11月には、2つの具体的な行動を起こしました。1つ目は、クラウドファンディングのための応援資金を街頭で募りました。その結果、予想よりも多くの応援資金をいただき成果を残すことができました。一緒に応援資金を募る呼びかけをくださったボランティアの方からは、「掲示したクラウドファンディングに関するパネルを見てくださる方もいてよかった」という声をいただきました。2つ目は、SNSを活用したイベントの実施です。アイキャンの投稿をシェアしていただくことで、より広範囲に周知することを試みました。広報の選択肢が制限される中で、このような状況だからこそ効果の見込める施策を実行していきました。

さまざまな施策を実行したことで効果は表れましたが、クラウドファンディングの金額の伸びが停滞した時期もありました。焦りが募る中、少しでも意味があるならと思い立ち、人通りの多い場所でチラシ配りを実施しました。それに加え、頻繁な情報発信やメルマガを通して日頃からアイキャンを応援してくださっている方へ繰り返しの呼びかけも継続しました。その結果、2回以上購入くださる方も現れ、金額も徐々に伸びていきました。また、サイトに寄せられる応援コメントも大きな励みとなりました。そして迎えた最終日には、目標金額を超える資金をいただくことができ、応援してくださっていた方々や職員の皆さんと達成の喜びを共有できたことが何よりも嬉しかったです。

クラウドファンディングは無事成功に終わりましたが、現地の方々の挑戦は今後も続いていきます。今回を最後にするのではなく、今後も困難な状況に置かれている人びとに目を向け、積極的に働きかけていきたいです。

**フィリピン事業**

11月/リザール州（フィリピン）

大型台風 22 号の被災者へ物資提供

からは「現在収入がなくなり、途方に暮れていたのが本当に助かります」との声が聞かれました。

11月11日にフィリピン・ルソン島に上陸した大型台風 22 号は、洪水などの甚大な被害をもたらしました。特に被害の大きいカシグラハン地域の避難所において、乳幼児を持つ保護者 60 名に対し、オムツや栄養補助食品などを提供し、受給者

ジブチ事業

11月20日/ホルホル（ジブチ）

「世界子どもの日」を記念してイベントを開催

を祝えて嬉しい。このコミュニティにとって、僕たちの存在が大切なんだと感じることができた」と語ってくれました。

11月20日の「世界子どもの日」を記念して、ホルホル難民キャンプの子どもたちを対象にイベントを実施しました。当日は絵具を用いてペイントする活動を実施し、50名の子どもたちが楽しみました。参加した10歳の少年は「子どもの日を

能力強化事業（NGO 相談員）

11月5日/名古屋（日本）

中高生を対象にオンライン講演を実施

できる国際貢献から始めていきたい」などの感想が聞かれました。

石川県立門前高等学校において、「国際貢献と英語力」をテーマに中高生 109 名に対してオンライン講演会を実施しました。当該校では新型コロナウイルスの影響により、海外研修が中止になってしまったため、身近に感じられるよう写真を多

ボランティア・寄付推進事業

11月7日/名古屋（日本）

中学生が事務所訪問とボランティア作業を実施

の現地の様子を知る事ができた」とのコメントをいただきました。

名古屋女子大学中学校より7名の学生が事務所へ来所し、フィリピンの路上の子どもやフェアトレードに関する講演を実施しました。講演後にはボランティアとして、フェアトレード商品へのタグ付け作業を担っていただきました。生徒からは「学校の事前学習で聞いた内容よりも、もっと詳しく、実際の